

みき通信

日本共産党 町議会議員
くぼたみき 活動報告



第47号 2015年2月25日

発行 がんばれくぼたみきの会

連絡先 875-7126 (阿部)

介護が危ない！

10月のみき通信でも取り上げましたが、自公政権によって強行成立された「医療介護総合法」により、4月から3年間で介護保険が大きく変えられようとしています。

主な内容は、要支援1,2の訪問通所介護サービスを介護保険の対象から外し、徐々に市町村の事業に移す。特養（特別養護老人ホーム）への入所は要介護3以上に（4月1日申し込み者から）。利用料を一律1割負担から一定の所得のある人は2割負担になるなどです。

今でさえ特養に入れない、利用料の負担が重くサービスを利用できないという声があるのに許されませんが、更に2015年度の予算で介護報酬が2.27%引き下げられるというのですから驚きです。賃金が低い特養ホームの職員が足りず、ベットが空いていても受け入れられない所もあるのが現状で、増々職員が足りなくなることが予想されます。この影響で東京都内で予定されていた特養建設が「これではやっていけない」と中止になっています。

一般企業の収支差と単純比較して、「特養は収支が良好」というのがその根拠ですが、特養の3割は赤字で実態を全く見ていません。

介護報酬を引き下げれば職員の待遇が悪化し、引き上げると保険料や利用料の負担増になる介護保険制度の仕組みも問題です。

日本共産党は、介護保険の国庫負担の割合を10%引き上げ、介護報酬を抜本的に引き上げることを提案しています。財源は消費税に頼るのではなく、富裕層や大企業優遇を改め「能力に応じた負担」による税制改革や、大企業の内部留保の活用で国民の所得を増やして税収増につなげるというものです。

安倍政権の下で、国民の命と生活を守ることが危うくなっている今、昨年末の選挙で議席を増やした日本共産党国会議員団と地元の議員団が力を発揮しています。

私たちも声を上げていきましょう。

来年度はどんな葉山を目指すのか・

町会議員 くぼた みき

平成27年第一回定例会が始まりました。この議会で27年度の予算が決まります。来年度、皆さんから預かった税金を何に使うのか、審議しています。

町長は、二年間「子育て支援」を重点項目としてきましたが、来年度から「健康」をテーマに掲げ、色々な施策の予算を組んでいます。

子育て・健康にも繋がる「小児医療費補助制度」を、小学校6年生まで所得制限つきを「子どもの健康は所得に関係ない」として所得制限を撤廃しました。以前より子供の権利として所得制限は設けるべきではないと主張してきた私は、一歩進んだと感じています。しかし、中学校卒業まで対象としている自治体もあり、学年が上がるにつれ病院にかかる子供が減るため予算は少なくて済みます。「子育てするなら葉山で」という、気持ちを持れば住民誘致にも繋がります。続けて声を上げていきます。

「健康」というと運動や病気にならないようにすることが思い浮かびます。検診事業の胃がんリスク検診や人間ドック・脳ドック費用補助が新しく拡充されています。しかし、特定健診の受診率は25年度23.7%と低く、受診者の底上げが重要となり、未受診者へ再通知するなど、そのための工夫を提案しています。また「町民体力測定」を企画し、今後の健康づくり、体力の向上を目指していますが、単発で測定だけ受けても健康に結びつくものではなく、その後のフォローが必要です。町にはプールや体育館などの公共の運動施設がありません。小中学校の体育館を空いている土日、夜間に使っている状況です。公共の体育館を持たない自治体は、県内2自治体です。施設がなければ運動できないというものではありませんが、他自治体の体育館やプールを使う為の補助も全くなく、危険信号だけ出して運動の管理は行わないというのは、「健康」を重点施策に掲げたとは言えないのではないでしょうか。緑の多い・海のある葉山。住んでいるだけでも健康になりそうですが高齢者の方もしっかりと健康に取り組めるよう、そして一時の啓発にならないよう健康を維持し仲間やつながりを持てるよう、町ぐるみの施策を考えることが必要です。

「みき通信」は、月一回の発行で47号となりました。

これまでの活動、議会の様子、町の様子を書いています。

バックナンバーをご希望の方はお手元にお届しますのでお気軽にお声掛けください。ホームページ < hayama.jcpweb.jp > にも掲載しております。